

隠岐空港・航路対策特別委員会

委員長 藤田千鶴

委員会は議会会期中に担当課の観光商工課長と補佐に出席を求め、隠岐空港・隠岐航路の利用状況及び取り組み等について意見交換を行った。

ジェット機集客の利用状況は七月が70・6%、八月は87・3%、平均81・5%と、初日悪天候に見まわれるなど厳しい状況の中

ではあったが、目標を達成する事ができた。来年度に向けた集客活動を今年度から行うとの事ではあるが、今後徹底した対応が必要と思われる。

出雲便の利用状況は8月現在、旅客数6,394人、搭乗率51・9%である。利用客確保に向け十月十五日より出雲便特別キャンペーンを行う。

隠岐汽船(株)は減船・人件費削減・運賃値上げ等により経営改善はされつつあるが独自の方針、営業収入をあげるべき努力が必要

ではないかとの意見が多く出された。隠岐交通問題対策協議会において寄港地、ダイヤ等について協議がされているがレインボー寄港地、島前一港についての問題解決も見えてない。

また、利用客は減少し、四月～八月、平成十八年28万1921人に対し、平成十九年25万5234人、△2万6687人となっている。

全体では観光客等の状況は推定交流人口数、平成十八年一月～八月まで10万7020人に対し、十九年一月～八月まで9万7793人で△9227人、前年比△8・1%であり、観光客の激減は明らかである。

原因はどこにあるのか、境港まできている大勢の客を隠岐に目を向けさせるにはどうすれば良いのか、リピーターを増やすにはどうすれば良いのか、「もてなしのこころ」・「人情の島隠岐」

・「自然に囲まれた癒しの島」「新鮮な魚介類を生かした手料理」どこかに忘れてはいないのか、多くの意見が出された。

島民の大切な生活路線・産業振興に無くてはならない隠岐空港・航路を守るため、魅力ある隠岐を再認識する重要性・必要性を確認し、何か一つでも提言できるように、今後調査、研究、検討を続けていきたい。

観光大使の取り組みは、関東・関西に向けて意見交換・アンケート調査を実施する予定であるとのことで、隠岐の島町にとつて貴重な意見が聞かれることと期待している。



大切な生活路線

請願・陳情等審査結果表 (平成19年第3回 隠岐の島町議会定例会)

番号	件名要旨	委員会における審査結果
陳情第6号	・八田集会所改築について	継続
陳情第7号	・大雨災害被害による観光施設連絡路線の早期復旧について	採択
要望第4号	・油井川の早期復旧について	採択
要望第5号	・大津久川の早期復旧について	採択
請願第2号	・八尾川中小河川改修事業等の早期完了について	継続

お詫び

前号(第11号5ページ)に掲載した写真とそのタイトル、(緑化が待たれる採石場)について、違法性があるかのようないメージをもたれる表現であるとの指摘を受けました。

もとより法的な面での問題は無いのは承知していましたが、事業終了後の思いを説明文としたところでありました。関係者に対してお詫び申し上げます。

今後、議会広報のあり方を協議していきたいと思っております。

編集後記

百年に一度の大雨が例外でなくなつた。九州、隠岐、埼玉、東北と、大雨災害に次々と見舞われた。もはや大雨は日常化してきた。地球温暖化による気候の変動によるものだとその声がいよいよ聞こえる。そういえば近海には熱帯魚も目立ってきた。列島は亜熱帯化し雨季と乾季がはっきりとしてきたようだ。

隠岐の島に住む私たちも人類が取り組まなければならぬ新たな共通の課題に直面していることを肝に銘ずるべきであろう。と同時に次々と襲ってくる天災に備えたインフラの再整備が必要となってきた。安心、安気な島を取り戻すために日常生活の中でも真摯な取り組みが求められよう。

宇宙船、地球号は誰かのためだけのもの、ではないのだから。

(文責 遠藤)